

令和3年度第1回 協力病院連絡会議(報告)

日時:令和3年7月9日(金)
16:00-17:30 Zoom 会議

出席者:川真田附属病院長
森医学教育部門長
増田臨床研修部門長
杉浦臨床研修部門員



参加者:教育協力病院および臨床研修関連の34病院
外部委員:県立病院機構 久保恵嗣理事長、信州 SP 会 白澤和子代表

川真田附属病院長の挨拶により開会し、森医学教育部門長が進行を担当した。

1. 令和3年度臨床実習の経緯と現況について・・・資料No.1

森医学教育部門長より、感染流行地から帰県後の2週間の自宅待機による健康観察により、実習を休むことになったことへのお詫びとご理解への感謝が述べられたのち、昨年12月に開催した第2回連絡会議以降の実習の対応について資料に基づき報告があった。

2. 臨床実習ガイドラインについて・・・資料No.2

森医学教育部門長より、「臨床実習生のワクチン接種が進んでいる。サークル活動や会食については病院職員より厳しい制限を継続していく予定である。そこで、秋季以降の実習では、流行制限地域から帰県後の自宅待機による健康観察を、病院職員同様に実習をしながらの健康観察に変更したい。」との説明があった。

参加者より「当院は感染流行地への帰県後2週間の待機をルールとしている。信州大学からの実習生も同様の対応をしたいと考えているが、いかがか。」と質問があった。

森医学教育部門長より、「ガイドラインに、『但し、実習先のルールを優先する。』を追記することしたい。」と回答があった。

3. 令和3年度「150通りの選択肢からなる参加型臨床実習」コースについて・・・資料No.3

森医学教育部門長より資料に基づき、国際認証受審で、コース作りのコンセプトを明確にするよう指摘があった。これを受け、より多くの学生が病床数200床以下の施設と病床数の多い施設を両方経験することにし、加えて、基本的には一般内科・総合診療科・救急で、より一般的な疾患を経験できることをコンセプトにコースを作成した。」と説明があり、提案通り承認された。

4. 令和3年度選択臨床実習学生による感想・・・資料No.4

森医学教育部門長より、「病院ごとの感想をまとめたので、お目通しいただきたい。」と説明があった。

5. 国際認証認定証交付について・・・資料No.5

森医学教育部門長より、最長である7年の認証を得られたことの報告とご協力への感謝が述べられた。

本会議に引き続き卒後臨床研修管理委員会を開催し、議事後、参加した全病院からヒアリングを行った。臨床実習に関して挙げられた意見要望は下記の通り。

- ・ 150通り実習生を受け入れたが、総じて真面目であった。今後も是非配属をお願いしたい。
- ・ 密回避で実習生受入人数を減らした。受入れ患者も少なくなり、教育の質の担保が課題と感じている。
- ・ 実習生が感染流行地への移動した後の実習参加については、当院独自のルールを適用させていただくので、ご了承いただきたい。
- ・ 院内で新型コロナウイルス感染者が確認され、実習中止となり残念であった。
- ・ コロナ禍のため、実習生、研修医、指導医の交流が難しい。
- ・ コロナ禍で研修医採用活動が難しい中、実習生の配属は良いリクルート活動になってありがたい。熱心に指導していきたい。
- ・ 実習生と研修医の机を近くし、コミュニケーションを取りやすくした。コロナ禍でも交流ができていたようであった。
- ・ 熱心な学生が多く、研修医の刺激にもなった。
- ・ コロナ対応で静かな院内であったが、実習生が派遣されてくることで院内が元気になった。
- ・ 感染防止のため院内外で制約があり、実習のサポート、精神的、日常的なケアが難しくなっている。
- ・ 他施設では元気な学生が多いとのご意見があるが、中には時間厳守ができない、挨拶ができない学生もいる。
- ・ 院内感染確認により、当初予定の実習診療科を他科へ変更したが、学生の感想を見ると充実していたようで安心した。
- ・ 小規模施設だからこそ経験できる実習を提供していきたい。
- ・ 様々な大学から実習生を受け入れており、信大生と他大生が交流している姿を見て、当院としても嬉しく感じている。一生忘れられない実習と経験を提供したいと考えている。
- ・ 松本圏域の感染レベルにより一斉に実習中断ではなく、実習先圏域の感染レベルによる実習継続を検討していただきたい。(森医学教育部門長より「週末に松本に戻ることににより学生が実習先にウイルスを持ち込むことを懸念しているが、前向きに検討していきたい。」と回答)
- ・ 急性期から帰宅まで見届けられる、最先端のロボットリハ等、当院ならではの实習を提供し、指導していきたい。

意見交換ののち、外部委員としてご参加の県立病院機構理事長の久保先生より「ガイドラインは新型コロナウイルス感染対策の影響が強いと感じた。医療従事者と臨床実習のワクチン接種も終了し始め、院内感染も抑制されている。適宜、ガイドラインを見直し、よりよい実習を進めていただきたい。」と講評をいただいた。

また、信州SP会代表の白澤様より、「7月4日実施の臨床実習終了後OSCEを無事終えることができた。今後も医学教育に協力していきたい。」と講評をいただいた。

以上をもち、予定時刻に閉会した。

以上